



## 地域力の向上とグローバルな若槻に

若槻地区住民自治協議会 会長 吉澤 隆文



敬頌新禧

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

Happy new year! May this year be happy.

皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えの心からお慶び申し上げます。

旧年中は、若槻住民自治協議会の事業に対し多大なるご支援、ご協力を賜り誠に有難うございました。恐縮ですがこの紙面を借りて御礼を申し上げます。

本年も引き続きご協力をお願いいたします。

さて、国内では、震度7を記録した9月6日の北海道胆振東部地震をはじめ大きな地震が多数発生し、台風21号・24号など5つの台風が日本への上陸と7月の西日本豪雨を初めとする各地の集中豪雨等々、災害の多い年でもあり、いずれも甚大な被害をもたらしました。あらためて自然災害の脅威を痛感した年でありました。

しかし、若槻地区では幸いにも5月の長野県北部地震では大きな被害は出ず、また他の災害もなく、昨年とは平穏な年であったと思います。

災害に備え、若槻地区も日頃の防災対策・訓練を一層強化して行きたいと思っております。

本年度のコミわか活動は、「第二次若槻まちづくり計画(五ヶ年)」の最初の年であり、計画した全85の事業は、おかげさまで順調に推移しております。

初めての事業である10月の「若槻総フェスティバル」は、区を超え世代を超え、住民のみんなが楽しめる「まつり」を目指し、清泉女学院大学や北部中学校の学生さんも参画して、獅子舞等の総祭り・バザー・屋台・キッズコーナー等に、秋晴れの中、来場者約600人、出演者・スタッフと合わせて約800人に参加していただき、各コーナー共大いに盛り上がり、また楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

また、9月8日から始まった「若槻地区の公共施設を考える」市民ワークショップも各区から公募いただいた各世代の男女30人と、信州大学の羽藤教授並びに学生さん、長野経済研究所を交えて、11月までに4回開催され、少子高齢化が進む中での各公共施設の在り方や、特に支所・公民館の将来像について活発な意見を出していただきました。これを機に歴代会長を中心に若槻コミュニティセンター建替促進委員会を11月に発足させ活動を開始しており、本年秋頃を目安に長野市へ要望書を提出していく予定です。

次年度からの第二次まちづくり計画をスムーズに進めるため、「住民が住んでほかれる地域づくり」を担う人材の育成や役員のなり手不足への対応等を、また「誰もが健康で自分らしく生きる為に支え合うまち」を目指した健康づくり・介護予防のあり方等を、総合的に検討する「地域振興・福祉課題検討プロジェクト」を立ち上げてまいります。

また、伝統芸能の継承、世代や地区を超えて伝統文化を地域に定着させていくために「伝統文化の継承事業」も本格化させていただきます。

本年4月で平成が終わり、5月から新しい年号となりますが、この節目の年に各地区のそれぞれの地域力の向上とグローバルな若槻を目指し、若槻の発展に努力をしておりますので、皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、この一年が皆様にとりまして、幸多い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。新しい年のご挨拶といたします。

